

【様式1】

学生支援緊急給付金申請書

独立行政法人
日本学生支援機構理事長 殿

私は、独立行政法人日本学生支援機構（以下「機構」という。）の学生支援緊急給付金を申請します。
私が現在、機構の奨学生である場合は、機構が保有する私の口座情報を学生支援緊急給付金の振込先情報として利用することに同意します。

1. 基本情報

		提出年月日	2020年 ○月 ○日	
所属する学校名	日本大学			
学籍番号	01A234-5			
氏名	カナ（姓）	ニチゲイ	カナ（名）	タロウ
	漢字（姓）	日 芸	漢字（名）	太 郎
生年月日（和暦）	昭和・平成○年○月○日生	電話番号	○○○-○○○○-○○○○	
機構の奨学生番号 ※機構の奨学生のみ記入ください。	○ ○ ○ - ○ ○ ○	○ ○ ○ - ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	△ △ △	△ △	△ △ △	△ △ △

2. 振込先情報

※ 機構の奨学生は記入不要です。ただし、機構の奨学生であっても機構に登録している口座が解約済であるなどの理由により、学生支援緊急給付金の受取りに支障がある場合は記入してください（機構の奨学金の登録口座については、別途、変更の届出が必要です）。

口座名義（カナ氏名） ※通帳記載の口座名義人を記入 (ゆうちょ銀行以外の金融機関)	
金融機関名・支店名	銀行 支店 信用金庫 営業所 農 協 出張所
金融機関コード	店舗コード
預金種別	普通預金 当座預金
口座番号	
ゆうちょ銀行	記号 番号

日本学生支援機構奨学金採用者(給付・一種・二種)で登録済口座へ振込希望の場合は記入しないで下さい。

※日本学生支援機構奨学金を利用していない学生、外国人留学生は必ず記入してください。

← 2種類以上(給付・一種・二種)の学生は余白にも記入してください。
申請時点で貸与を終了している学生は余白に"第○種貸与終了"と記入してください。

←採用された場合に入金される口座情報です。記入間違いがあった場合、採用されても入金が遅れる可能性がありますので、必ず記入後に口座情報の間違いがないか確認してください。

←口座は学生本人名義の口座を記入してください。一部利用できない口座がありますので下記を確認してください。

【取扱い金融機関】

	利用できる	利用できない
金融機関	日本国内の銀行(ゆうちょ銀行を含む)、信託銀行(一部対象外)、信用金庫、労働金庫、信用組合、農業協同組合(※)	外資系銀行、インターネット専門銀行(楽天銀行、ジャパンネット銀行等)、その他一部の銀行(新生銀行・あおぞら銀行・セブン銀行)
口座	本人名義の普通預金(通常貯金)口座	本人以外名義の口座、貯蓄預金口座、休眠口座

※日本学生支援機構の貸与、給付奨学金では取り扱っていない一部の金融機関についても、今回の給付金については、取扱金融機関の対象となります。

3. 申し送り事項

- ※ 証明書の提出が困難な理由や多子世帯、ひとり親世帯等であることなど、大学等に申し送りすることがあれば記入ください。なお、こちらに質問などを記載しても返信致しません。
- ※ 大学等1年生で予定していたアルバイトがなくなった場合等は、そのような事情を記入ください。

- **自宅生です。**
- **ひとり親で且つ多子世帯です。母はいますが父は離別したためおりません。妹（〇〇県立〇〇高校2年生）と兄（〇〇大学大学院1年生）がおります。**
- **非課税世帯です。母の令和2年度（令和元年分）所得証明書を添付します。**
- **1社分の令和2年2月～4月の給与明細を提出します。もう1社分は現金で支給された単発のアルバイトのため、明細は提出できません。そのため、雇用主に作成してもらった給与支払の証明書を提出します。**

- **自宅生の場合はここに「自宅生である」と記入してください。**
- **ひとり親、多子世帯(乳児～大学生までの就学児が自分を含め3人以上)の場合は必ずそのことを記載し、家族構成（就学状況や学年）も書いてください。**
- **両親が非課税世帯の場合はここに記入してください。(日本人のみ)**
- **アルバイトの証明書類として添付したものについて、ここに記入してください。例) 預金通帳コピー（先月は振込があり、当月は振込がないことがわかる部分）また、補足情報がある場合も記載してください（例えば明細がない場合、現金支給の場合等は雇用主から給与支給額の証明書を作成してもらってください）。なお、1年生は予定していたアルバイト内容（契約内容・賃金等）を具体的に記入してください。**

4. 添付書類

- ※ 該当書類の「チェック」欄に「○」を記入してください。該当がない場合は、添付する書類名を記載のうえ、「チェック」欄に「○」を記入してください。

チェック	書類名
○	預貯金通帳の写し（任意）
○	アパート等の賃貸契約書の写し（自宅外生のみ）
○	新型コロナウイルス感染症対策に係る公的支援を受けている受給証明書等（提出可能な場合）
○	アルバイト先からの給与明細（減額前、減額後） （任意） （必須）
○	奨学生証又は住民税非課税証明書 （提出可能な場合） （該当者必須）
	その他（ ）

- ← **給与の減収がわかるページのコピーを提出してください。**
- ← **学生氏名・住所記載ページのコピーを提出してください。**
- ← **家庭が受けている証明書等です。ない場合は申し送り事項に理由を記入してください。**
- ← **令和2年1月以降のものです。給与明細やそれに代わるものを必ず提出してください。**
- ← **現在、実家にいる等の理由で奨学生証が提出できない場合は、申し送り事項に記入してください。また、住民税非課税証明書を提出する場合は両親2名分を提出してください（学生本人分ではありませんのでご注意ください）。**

ご記入いただいた情報は、機構の学生支援緊急給付金のために利用されます。この利用目的の適正な範囲内において、当該情報が、文部科学省、学校、金融機関及び業務委託先に必要に応じて提供されますが、その他の目的には利用されません。

また、行政機関及び公益法人等から奨学金の重複支給の防止等のために照会があった場合は、適正な範囲内においてあなたの情報が提供されます。

【様式2】

学生支援緊急給付金を受けるための要件に係る誓約書

私は、独立行政法人日本学生支援機構が実施する学生支援緊急給付金に申請するにあたり、次の①～⑥(留学生は①～⑤及び⑦)の申請要件について、満たしている項目を確認しました。

要件チェック項目	チェック欄(レ)	金額(年額)
<p>多額=目安150万円以上(手引きP5参照) 自宅生は仕送り=援助金で考える</p> <p>① 家庭から多額の仕送りを受けていない ※1年生は家庭からの仕送り予定額、2年生以上は2019年度の仕送り年額を記載すること</p>	✓	100万円
② 自宅外で生活している又は自宅で生活しているが家庭から支援を受けていない	✓	
③ 生活費・学費に占めるアルバイト収入の割合が高い。 ※1年生はアルバイトでの収入予定額、2年生以上は2019年度のアルバイト収入額を記載すること	✓	90万円
④ 家庭(両親)の収入減少等により、家庭からの追加的支援が期待できない	✓	
⑤ コロナ感染症の影響でアルバイト収入(雇用調整助成金による休業補償を含む。)が大幅に減少(前月比50%以上)している	✓	
⑥ 既存制度について以下のいずれかを満たす		
1) 高等教育の修学支援新制度(以下「新制度」)の第Ⅰ区分の受給者 両親が非課税世帯の場合も1)に該当します。必ず非課税の所得証明書を添付してください。	<p>一つだけ選択</p>	
2) 新制度の第Ⅱ又は第Ⅲ区分の受給者であって、第一種奨学金の併給が可能な者にあつては、限度額まで利用している者又は利用を予定している者		
3) 新制度に申し込みをしている者若しくは今後利用を行う者であつて、第一種奨学金の限度額まで利用している者又は利用を予定している者		
4) 新制度の対象外であつて、第一種奨学金の限度額まで利用している者又は利用を予定している者		
5) 要件を満たさないため新制度又は第一種奨学金を利用できないが、民間等を含め申請が可能な支援制度の利用を予定している者		✓
⑦ 留学生等(日本語学校の生徒を含む)については、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、経済的に困窮していることに加えて、以下の要件を満たすことが必要。 1) 学業成績が優秀な者であること。具体的には、前年度の成績評価係数が、2.30以上であること 2) 1か月の出席率が8割以上であること 3) 仕送りが平均月額90,000円以下であること(入学料・授業料等は含まない。) 4) 在日している扶養者の年収が500万円未満であること		

上記の内容に相違ないことを誓約し、申請内容に虚偽があつた場合は返金することに同意します。

令和 2 年 7 月 5 日

学校名 日本大学 学部/研究科名 芸術学部

学籍番号 01A234-5

署名: 日芸太郎

「学生支援緊急給付金」を申請するためには

- ・日本人学生は①～⑥のすべてに✓が必要です。
 - ・外国人留学生は①～⑤及び⑦のすべてに✓が必要です。
- ① 仕送り額(自宅生は援助額)を年額(4月～3月までの1年間)で記入してください。記入した金額が、「学生支援緊急給付金の申請に係る確認書」(大学指定書式)チェック項目の①確認事項学費+生活費の合計額と一致しているか確認してください。
 - ② 「自宅外で生活している」方は、賃貸契約書、住民票の写し、家賃の支払い明細書等を提出してください。「自宅で生活しているが家庭から支援を受けていない」方は、確認書の②確認事項欄に必ず記入してください。
 - ③ アルバイト額(1年生は予定額)を年額(4月～3月までの1年間)で記入してください。
 - ④ 家庭からの追加的支援が期待できないことを確認するため、新型コロナウイルス感染症の影響による収入減少者を対象とした公的支援の受給証明書またはそれに類する書類を提出してください。提出できない場合は、申し送り事項に追加支援が期待できない理由を記入してください。
 - ⑤ 1年生は、アルバイトを予定しており、得られるはずであった収入が得られなくなった場合に該当します。2年生以上は、令和2年1月以降の給与支払額(複数アルバイトがある場合は合算)で減収前と減収後の合算月額が50%以上減収している場合に該当します。
 - ⑥
 - ・国の高等教育修学支援新制度のⅠ区分を利用している学生は1)に該当します。
 - ・国の高等教育修学支援新制度のⅡ区分だけを利用している学生は2)に該当します。
 - ・国の高等教育修学支援新制度のⅢ区分だけを利用している学生は5)に該当します。
 - ・日本学生支援機構第一種奨学金または第二種奨学金だけを限度額以外で借りている学生・借りる予定の学生は5)に該当します。
 - ・令和2年度(令和元年分)所得証明書で新たに非課税世帯となった場合は1)区分で申請できます。必ず両親の非課税証明書を添付し、1)に✓をつけてください。
 - ・日本大学創立130周年記念奨学金等、本学独自の奨学金申請者は5)に該当します。
 - ・支援制度の利用を予定している者は「現在利用している者」も含めます。
 - ・地域の社会福祉協議会等が行っている困窮世帯への融資制度は学生本人への支援ではありませんので対象となりません。
 - ⑦
 - ・成績評価係数はGPAとは異なります。「成績評価係数の算出方法」に従って正確に記入してください。
 - ・成績評価係数は累計でなく前年度(2019年度)のみで算出してください。1年生は成績評価係数がないので成績確認を大学で行います。項目1)以外が該当していれば✓をつけてください。

学生支援緊急給付金の申請に係る確認書

(日本大学様式)

学部 (大学院)	学科 (専攻)	学年	学生番号	氏名
芸術	〇 〇	〇	01A234-5	日 芸 太 郎

申請にあたり、要件①、②、③、⑥を確認するため回答します。(太枠部分を記入してください)

要件チェック項目	確認事項			
①家庭からの多額の仕送りがないこと ※多額=150万円(学費+生活費)が目安です ※仕送り額の内訳を記載してください ←自宅生は奨学金 ※合計額が誓約書の金額と同額となります ↑様式2 ①の年額=学費+生活費→	仕送り額の内訳			
	<table border="1"> <tr> <td>学費</td> <td>生活費</td> </tr> <tr> <td>80 万円</td> <td>20 万円</td> </tr> </table>	学費	生活費	80 万円
学費	生活費			
80 万円	20 万円			
②原則として自宅外で生活していること ※自宅生で家族から学費等の援助を受けていない場合は、記載してください	(家族から学費等の援助を受けずに、どのようにして学費・生活費を工面しているか記載) (自宅生の場合) 自宅生であるが、日本学生支援機構奨学金で年間学費150万円を賄い、残りの学費と生活費はアルバイト代と貯金の取り崩しで補っているため、親から援助を受けていない			
③生活費・学費に占めるアルバイト収入の割合が高い	(アルバイト収入のおよそ何パーセントを学費・生活費に充てていますか) 例) 月10万円で10万円を学費・生活費に充当した場合 およそ 100 %			
⑥既存制度について以下のいずれかを満たす(⑥は日本人のみ回答) ※該当するものいずれかに☑をつけてください				
1) 国の修学支援新制度の第Ⅰ区分の受給者 ※非課税証明書を提出した者を含む	<input type="checkbox"/> 新制度Ⅰ区分の対象者である			
2) 国の修学支援新制度の第Ⅱ区分又は第Ⅲ区分で第一種奨学金を限度額まで利用又は利用予定	(新制度Ⅱ区分又はⅢ区分で) <input type="checkbox"/> 第一種奨学金を限度額まで利用している <input type="checkbox"/> 第一種奨学金を限度額まで利用する予定			
3) 国の修学支援新制度の申込みをしている又は今後利用する者で第一種奨学金を限度額まで利用又は利用予定	(新制度に) <input type="checkbox"/> 申込みをしている <input type="checkbox"/> 今後利用する (第一種奨学金を) <input type="checkbox"/> 限度額まで利用している <input type="checkbox"/> 利用する予定			
4) 国の修学支援新制度対象外で、第一種奨学金を限度額まで利用又は利用予定	(新制度対象外で) <input type="checkbox"/> 第一種奨学金を限度額まで利用している <input type="checkbox"/> 第一種奨学金を限度額まで利用する予定			
5) 要件を満たさないため、国の修学支援新制度又は第一種奨学金を利用できないが、民間等の支援制度を利用又は利用予定	<input checked="" type="checkbox"/> 可能な奨学金の利用を予定している			

←学費とは、授業料、施設設備資金及び実験実習料の合計額です。入学金は含めません。

←アルバイト金額の大小に関わらず、そのアルバイト収入をどのくらい学費・生活費に充当しているか記入してください。

←この1) ~ 5) は様式2誓約書-⑥の回答と同じ番号に✓が入ります。

<留学生は裏面に続く>

日本人学生はここまでで回答終了です。外国人留学生は裏面を回答してください。

このページは外国人留学生（在留資格＝留学）のみ記入してください。

【 基準⑦の確認事項 <留学生は必須> ※学部・大学院の1年生は2～4を回答してください 】

1 前年度の成績評価係数は、2.30以上ですか

<input checked="" type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
-------------------------------------	---------------------------

※ 以下の算出方法で、成績評価係数を算出し、回答を選択してください。

[成績評価係数の算出方法] ※N：認定，P：削除 は登録単位数に含めないでください

※この単位数は前年度（2019年度）です。累計ではありません

(「評価ポイント3の単位数」×3)+(「評価ポイント2の単位数」×2)+
(「評価ポイント1の単位数」×1)+(「評価ポイント0の単位数」×0)

—————
総登録単位数

←成績評価係数はGPAとは異なります。LiveCampusで自分の成績を確認し必ず左の計算式にあてはめて確認してください。なお、1年生は記入の必要はありません。質問の2以降を記入してください。

5段階評価 評価ポイント①	成績表に基づく学内成績評価				
	S	A	B	C	D・E
3	3	3	2	1	0
修得単位数②	20	20	10	5	5
評価ポイント③ (①×②)	60	60	20	5	0
評価ポイント合計④ (③の合計)	145				
総登録単位数⑤	60				
成績評価係数 (④÷⑤) (小数点第3位を四捨五入)	2.42				

2 一か月の出席率が8割以上ですか

3 仕送りの平均月額はいくらですか

4 在日している扶養者の年収が500万円未満ですか

※4は該当者のみ回答

<input checked="" type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
月額 30,000 円	
<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ

←本年5月11日以降のオンライン授業の出席率です。

←在日している扶養者とは、日本に住んでいて経済支援をしてくれる人を意味します。母国に住んでいる両親のことではありません。日本に経済支援をしている人（両親を含め）が住んでいない場合は回答しないでください。